



写真9 解説板



写真10 解説板



写真11 解説板



写真12 解説板

## 2000年春をよぶラン展の展示記録

濱谷修一・内田喜章

当園では、平成12年1月29日(土)から2月13日(日)にかけて「2000年春をよぶラン展」を開催した。今後の参考とするため、本展示会の展示実績を記録する。なお、本展示会は、昭和62年に開催された「世界蘭会議広島大会」を記念して、以後、毎年2月又は3月に実施しているもので、大温室を主会場とし、当園最大級の予算規模をもつイベントである。

### 展示テーマ

平成12年度広島市文化施設ジョイント事業の統一テーマであった「色」を、本展示会のテーマとした。

### 展示概況

展示ブースは装飾区域と単品展示(品評会)区域に大分した。展示場所として、大温室に植栽している植物の中で移植が比較的容易な区域、大木の

などで比較的大きな空間が確保できる区域を選んだ。装飾区域については、直営で装飾する区域と、外部団体の材料提供などの協力により装飾する区域に分けた。その区域分けは図1、それぞれの概要は表1に示した。

### 所感

近年は、ランの普及が進み、「ラン展」と銘打つだけでは入園者の増加は難しくなっている。今回の展示期間中入園者は11,816人で、ここ5年ほどは横ばい又は暫減傾向にある(表2)。しかしながら、「ラン展」開催の前後と比べれば入園者は明らかに多くなっており、入園者対策における展示会の効果は否定できない。

また、期間中、「ガイドツアー」や「実演会(植え替えなどのデモンストレーション)」などをほぼ毎日実施し、ソフト面の充実を図った。これは入園者増に即反映されるものではなかったが、参加者にはおおむね好評で、また植物公園に来てみようという気持ちになってもらうための、ひとつのきっかけと

なったように認識している。

愛好者団体や、企業・生産者の展示・装飾した部分について、いくつかの問題が明らかとなった。図1のAの部分は南側が大きく開けており、写真を撮影する際に逆光となるという苦情が聞かれた。Bの部分は、最も出品者数・点数の多い団体の展示箇所であったが、平成12年度の温室内の植栽見直しの結果、ここが休憩所として改装され、今後は当該団体のために別の展示場所を探す必要が生じている。Cの部分は、熱帯果樹の植栽区域の一部で、時々ゴレンシの実が落下し、展示植物を傷める恐れがあった。この区域は、預かり物の展示には向かないといえる。

今回は、例年実施している品評会（協力出品の中から優秀作品18点を表彰。結果は表3に表示）のほか、一般入園者の投票による人気投票を実施した（表4）。投票の対象花は、協力団体出品のランとしたが、上位5点のうち、図1のA区域の展示物から4点が選出された。実際に良い作品が多かったこともあるが、A区域の前の通りが最も人通りの多い場所となり、展示場所の違いによって差が出たように感じられてならない。

また、開催期間が2週間以上にわたるため、カトレヤやデンドロビウムなどの開花期間の短い種で、展示期間内に花が終わってしまう例が多数見られた。これは、花を楽しみに来られた方にとって申し訳ないことであり、今後は展示期間の短縮などが望まれる。

栽培面について見てみると、ランを装飾する区域に植栽されていた植物は、強く剪定されたり、掘り上げられたり、踏みつけられたりして、生育上大きなダメージを受けていることは明らかである。この点は以前からも指摘しているが、当園の現況では、冬に大規模なイベントを開催できるスペースは大温室において他に無く、いたしかたの無いところである。この時期に大規模な展示会を続ける以上、年に一度の大規模な植栽見直しの期間と割り切って、温室内植物の年間植栽計画を立てていく必要がある。

表2. 春をよぶラン展の入園者数の推移

展示会名称	期 間	期間中入園者数	1日当たり平均入園者数
2000年春をよぶラン展	14日間 1月29日(土)～2月13日(日)	11,816	844
99春をよぶラン展	12日間 1月30日(土)～2月11日(木・祝)	9,501	792
98春をよぶラン展	12日間 1月31日(土)～2月12日(木)	11,139	929
97春のラン展	14日間 3月15日(土)～3月30日(日)	12,920	923
96春のラン展	14日間 3月16日(土)～3月31日(日)	18,275	1,305
95春のラン展	14日間 3月18日(土)～4月2日(日)	14,828	1,059

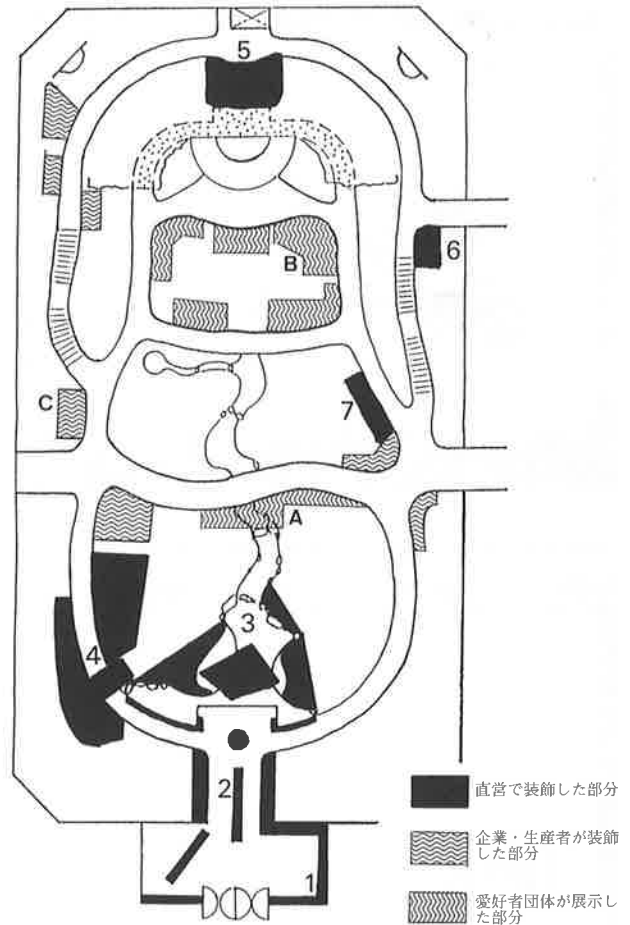


表1. 展示区域概要

区域	装飾担当	ブース概要
装飾区域	直営*	1 ** 導入 (グラデーションのパネル)
		2 ** いろいろなランを使った賑やかな飾り
		3 ** 多くの色からできたピラミッド (デンファレ、ファレノプシス中心)
		4 ** 黄色のコーナー (オンシディウム中心)
		5 ** ピンクのコーナー (ファレノプシス、デンファレ中心)
		6 ** 白のコーナー (ファレノプシス中心)
		7 ** 緑のコーナー (パフィオ、シンピ中心)
装飾区域	企業・生産者	広島県立因島フラワーセンター 150点
		向島洋ラン組合 15点
		八千代町農業協同組合 37点
		高橋洋ラン園 65点
		(有)橋本園芸場 26点
		福山園芸 30点
谷口農園 23点		
単品展示区域	愛好者団体	広島洋蘭クラブ 13名 93点
		呉洋蘭クラブ 7名 55点
		岩国蘭友会 8名 61点
		徳山蘭友会 18名 47点
		宇部ラン愛好会 5名 30点
	日本蘭協会西中国支部 14名 108点	

\* 直営装飾に使用したラン一覧  
 オンシディウム 790鉢、エビデンドルム 30鉢、カトレヤ 5鉢、シンピディウム175鉢、デンドロビウム 305鉢、デンファレ 600鉢、パフィオペディウム 60鉢、ファレノプシス 400鉢  
 (これ以外に、ラン展に關係なくいつもランを展示している区域については、通常どおりランを展示した)  
 \*\* 数字は、図1で示した場所を表わす。

表3. 2000年春をよぶラン展 洋ラン品評会審査結果

賞名	受賞作品	受賞者(敬称略)	所属*
広島市長賞	<i>C. trianaei</i>	谷口 一彦	広島(JOS)
広島市議会議長賞	<i>Den. fimbriatum</i>	板倉 昭子	広島
広島市教育長賞	寄せ植え My Garden 「春のよそおい」	松村 さよみ	徳山
広島市動物園・公園協会理事長賞	<i>Lc. Melody Fair 'Carol'</i>	樋谷 イトエ	岩国
広島市植物公園長賞	<i>Paph. Booths Sant lady</i>	川上千寿子	JOS(広島)
中国新聞社賞	<i>Paph. Norito Hasegawa</i>	小林 英美	徳山
NHK広島放送局長賞	<i>Lyc. Shoalhaven</i>	網井 博一	広島
中国放送賞	<i>Paph. suhakulii</i>	岡本 良春	JOS(広島)
広島テレビ賞	<i>V. lumpini</i>	上田 衛	JOS(広島)
広島ホームテレビ賞	ミニカトレヤ寄せ植え	志賀 繁	宇部(JOS)
テレビ新広島賞	<i>Paph. May Green '#1'</i>	松村 鶴彦	広島
広島エフエム放送賞	<i>Paph. stonei v. latifolium 'chie'</i>	清水 昭一	JOS(広島)
チャンネルU賞	<i>Den. obtusisepalum</i>	河添 正文	JOS(広島)
優秀賞	<i>Phrag. lindleyanum</i>	伏岡 保雄	呉
優秀賞	<i>Ang. eburneum</i>	竹下 正義	宇部(JOS)
優秀賞	<i>Paph. Leeanum</i>	齊藤 孝子	徳山
優秀賞	<i>Lc. Meadow Gold</i>	今井トヨ子	徳山
優秀賞	<i>Dendrochillum sp.</i>	林 靖一郎	JOS(広島)

審査日 平成12年1月29日(土)

審査対象点数 409

\* 2個以上の団体名がある場合、初めに書いてあるものが実際に展示した場所、カッコ内のものが重複して所属している団体。なお、表示は略称。正式名称は以下のとおり

JOS: 日本蘭協会西中国支部、広島: 広島洋蘭クラブ、呉: 呉洋蘭クラブ、岩国: 岩国蘭友会、徳山: 徳山蘭友会、宇部: 宇部ラン愛好会

表4. 2000年春をよぶラン展 人気投票結果

順位	受賞花	受賞者(敬称略)	所属*
第1位	<i>Den. primulinum 'UltimateWoods'</i>	林 靖一郎	JOS(広島)
第2位	<i>Bc. Memoria Crispin Rosales 'Princess Michiko'</i>	岡本 英雄	JOS(広島)
第3位	<i>Dendrochillum sp.</i>	林 靖一郎	JOS(広島)
第4位	<i>Phragmipedium besseae 'April'</i>	福井 中庸	JOS(広島)
第5位	<i>Lc. Melody Fair 'Carol'</i>	樋谷 イトエ	岩国

投票日 平成12年1月30日(日)

\* 所属の表示については表3を参照。

## チュウキンレンの開花について

磯部実・永井親雄・濱谷修一

チュウキンレン (*Musella lasiocarpa*) が、当園においてはじめて開花したので報告する。

1990年に中国より種子を導入・は種し、1個体が得られ、鉢植えで栽培を継続した。その後、冬は最低10℃の温室内、春から秋は同じ温室内(25℃で天窓開閉)または屋外で管理した。

2000年9月3日に、花序の発生を確認し(写真1)、9月13日に開花(苞の展開)を認めた(写真2)。開花時の草丈は約70cm。花序の直径は約20cm。苞は濃黄色。文献には「開花時に葉身は枯れる」とさ



写真1 花序の発生(9月3日)

れているが、実際には葉が6枚展開していた。

その後、大温室内で一般公開したところ、11月上旬には苞の著しい傷みが観察された。その後も新たな苞の展開は続いていたが、観賞に耐えなくなったため撤去し、バックヤードに戻した。本種は連続して観賞できる期間が長く、200日以上可能な場合もあるとされているが、今回は2ヶ月弱と短い結果となった。その原因として、大温室内の湿度が高すぎたこと、ショウジョウバエやオンシツコナジラミが発生し、苞の傷みを助長したことが挙げられる。

なお、この年(2000年)の春(4月末頃)、例年になく新芽が多く(10本以上)発生しており(例年はないか、出ても1本)、新芽の発生の増加が開花の前兆現象であることが示唆された。



写真2 開花(9月13日)